

製品名: リン酸化フィラミン A (Ser1083) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe87113

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:281 kDa; Observed MW:281 kDa

抗原情報

遺伝子名	Phospho-Filamin A (Ser1083)
別名	FLN; FMD; MNS; OPD; ABPX; CSBS; CVD1; FLN1; NHBP; OPD1; OPD2; XLVD; XMVD; FLN-A; ABP-280
遺伝子 ID	2316
SwissProt ID	P21333
免疫原	ヒトフィラミン A の Ser1083 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

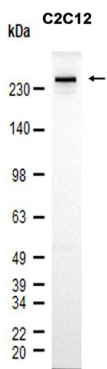
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、アクチンフィラメントを架橋し、アクチンフィラメントを膜糖タンパク質に結合させるアクチン結合タンパク質です。このタンパク質は細胞骨格のリモデリングに関与し、細胞の形状や遊走に変化をもたらします。このタンパク質は、インテグリン、膜貫通受容体複合体、およびセカンドメッセンジャーと相互作用します。この遺伝子の欠陥は、脳室周囲結節性異所性症候群 (PVNH1、PVNH4)、耳口蓋指症候群 (OPD1、OPD2)、前頭骨幹端異形成症 (FMD)、メルニック・ニードルズ症候群 (MNS)、X連鎖性先天性特発性偽性腸閉塞症 (CIIPX) など、いくつかの症候群の原因となります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009年3月]

研究分野

-

画像データ



リン酸化フィラミン A (Ser1083) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した C2C12 細胞抽出物のウエスタンブロット分析。